



この便りは、小郡小学校教職員の活動の一端をご紹介します。

## Q. 「校内研修」とは何か？

月の行事予定の中に「職員会議」や「校内研修」と記述があることにお気づきでしょうか。「職員会議」というのは、学校の行事や諸問題について職員が話し合う会議のことですが、「校内研修」についてご存じの方はいらっしゃるでしょうか？ 校内研修とは、文字通り、学校でおこなう先生たちの研修つまり「お勉強会」です。

教職員は、法律により「絶えず研究と修養に努めなければならない。」とされています。日頃の授業をどのように組み立てるかに始まり、どうすれば子供たちの興味をひくことができるのか、どうすればやる気を引き出すことができるのか、どの子にもわかるようにするにはどう教えればよいのか等々、私たちは、個人的に研修したり、出張という形で校外に出て研修したり、校内研修という場で研修を絶えず行っています。

## Q. 「研究授業」とは何か？

研究授業とは、学校で行われる、多数の人に公開する授業のことです。校内の先生が参観する校内研究授業といった規模の小さいものから、全国の先生を呼んで参観するといった規模の大きいものもあります。

授業を公開する際には、学習指導案を授業者は用意し、準備をします。学習指導案とは、教師が授業をどのように進めていくかを記載した、学習指導・学習支援の計画書のことです。例えば、何回の授業時間で指導するか、どのような学習の形態（一斉授業、グループ学習、調べ学習、体験学習、その他）で授業を行うか、今回の授業で何をどのような順序や方法で指導するなどについて、まとめたものが学習指導案です。

授業を提案する授業者は、この指導案を作成するために、その教科や内容について研究をします。この研究のことを教材研究ともよびます。この教材研究を積み重ねていくことで、普段の授業よりも多くのことを教員は学ぶことができ、それが授業をする力を向上させたり、教師としての資質を高めることになります。

さて、今年度の小郡小学校の校内研修テーマは、

**《自分の思いや考えをもち、学び合いを通して深い読み取りのできる子どもの育成》**

サブテーマは、 **～伝え合い高まり合う授業を創る～** です。

自分の考えや思いを表現しながら、『話し合い』の活動を通して、「聴き合い」から「学び合い」へ児童同士が高め合い、やる気を持って、進んで学習できる子供たちに育てていこうとすることを目標にしています。このテーマのもと、小郡小の教師全員が、研究授業を見せ合い実践を通して私たち教師も学び合うことになっています。

本校は、『話し合い』の活動を通して学びを創る、授業を創る』という研究を進めて3年目となります。今年、11月25日（金）に全国創造国語研究会と合同主催で、第50回全国国語科教育研究大会を本校会場に開催することになりました。この大会で、本校教員の研究授業も公開し、全国、県内各地よりおいでになった先生方からのご指導を仰ぐつもりです。また、この大会では、全国レベルの先生方が、本校児童の教室で授業を公開されます。私たちが育てた子ども達が全国の先生方にもどのように評価されるのか、私たちの歩みを検証するとともに、この公開授業を参観することによって、すぐれた先生方から多くのことを学び、子どもたちのために役立てたいと考えています。

## ○私たちが目指しているもの・・・「話し合い」の活動を通して 学び合う。

「学びを喜び、ともに高め合う子ども」を育てます。



ともに高め合う  
↓  
話し合い活動

- 「聞く力」「話す力」から「聞き合う関係」を創る。
- 「聞き合う関係」から「学び合う関係」が生まれる。

想像するって楽しいな  
言葉ひとつでも  
いろいろな考えがあるんだな  
はじめは僕の想像と違っていた  
だから、友だちと考え方が  
違うのかなと思った  
でも、話し合っていると  
考えがわかってきた  
友だちの考えってすばらしい  
○君があんな考えをもっているなんて  
驚きだった  
「白いぼうし」がおもしろくなってきた  
友だちってすばらしい  
みなおしたよ ○○君  
ありがとう ○○君

『話し合いの活動』のためにめざします。

### ○ つながる話し合い

発表の仕方の指導・・・でも、つけたし、みんなとちがって、もっとくわしくいうと、だから

### ○ 「聴き方」を磨く

聞き方の指導・・・どうして、なぜ、そのわけは、でも

### ○ 学習集団づくり

学級づくり・・・認め合い・支え合い・励まし合う、人間関係づくり

○意欲的に取り組むための「学習課題」の設定



『学ぶ喜びを味わう』ためにめざします。

↓  
課題の探求・一人学び

砂場で遊ぶ子どもたちは、たくさんのことを学びます。そして何よりも、意欲満々です。砂を集めて山を作りはじめます。やがて、大きな山を作りたいと思い始めます。そのためには、スコップで固めることにも気付きます。バケツに砂を集めてのせることにも気付くかもしれません。

山ができれば、次はトンネルです。トンネルをどうやったら貫通できるのか試行錯誤を始めます。山が崩れないようにすることも考えます。そして、貫通してバンザイです。

教室での学習でも、この砂場のような気持ちを子どもたちにもたせたい。わくわくドキドキする気持ち。学ぶことの喜びを子どもたちに味わってもらいたい。それが目標です。

白いぼうしは、わたしの思った話とちがう話でした。題名だけかなしとおもうのはまちがいでした。でも、ちょっとだけにていました。よかったです。  
勉強で自信をもって手をあげたのは、はじめてです。教科書にいつぱいかきこみをしたので、松井さんの気持ちがわかったような気がしました。